

被爆樹木について

1945年8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾により広島は街は廃墟と化しました。また、同年8月9日午前11時2分には長崎の街でも原子爆弾が炸裂し、壊滅的な被害をもたらしました。その年の暮れまでに両市合わせて約21万人もの市民が亡くなりました。

被爆樹木は、被爆の惨禍に遭いながらも再び芽吹き、市民に生きる勇気と希望を与えるとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え掛けています。

平和首長会議では、国内外の加盟自治体に平和のシンボルである被爆樹木の種や二世の苗木を配布し、市民に育成してもらうことにより、平和意識の醸成を図る取組を実施しています。

この取組を通じて、世界中の人々に広島・長崎の被爆の実相を理解し、核兵器廃絶を願う被爆者の切実な思いを共有していただきたいと思います。

「被爆樹木」って何？

原子爆弾により、多くの樹木の幹は折れ、焼き尽くされました。そうした中、広島市では、爆心地から概ね半径 2km 以内に生き残った 159 本の樹木を被爆樹木として登録しています。(2026年3月時点)。

平和首長会議が二世の苗木を配布している被爆樹木の親木



1 アオギリ(平和記念公園)

爆心地から1,300mで被爆

旧広島通信局の中庭で被爆し、爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、翌1946年には青々とした芽を吹き返しました。1973年に現在の場所に移植されました。



2 イチョウ(縮景園)

爆心地から1,370mで被爆

このイチョウは、樹齢200年以上と言われており、原子爆弾の影響により傾きましたが、原爆投下後に発生した火災にも耐え、今も大きな枝を広がっています。



3 クスノキ(長崎・山王神社)

爆心地から800mで被爆

原子爆弾により幹は黒焦げとなって大きく裂け、一時生存が危ぶまれましたが、2か月後には芽吹き、その強い生命力で市民を勇気づけてきました。1969年、長崎市天然記念物に指定されました。

広島市内の被爆樹木マップ



被爆樹木の識別番号「E13b23-01」の意味とは？

E：爆心地から見た所在地の方角が東である（S：南、W：西、N：北）

13：爆心地から所在地までの距離が1,300m台である（例 07：700m台、15：1,500m台）

b：移植されている（a：移植されていない）

23：所在地ごとに付与した番号

01：同じ所在地内での通し番号



(公財) 広島平和文化センター国際部平和首長会議・国際政策課

〒730-0811 広島市中区中島町1番5号

✉ mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp

☎ 082-242-7821

公式ウェブサイト



公式X(旧Twitter)

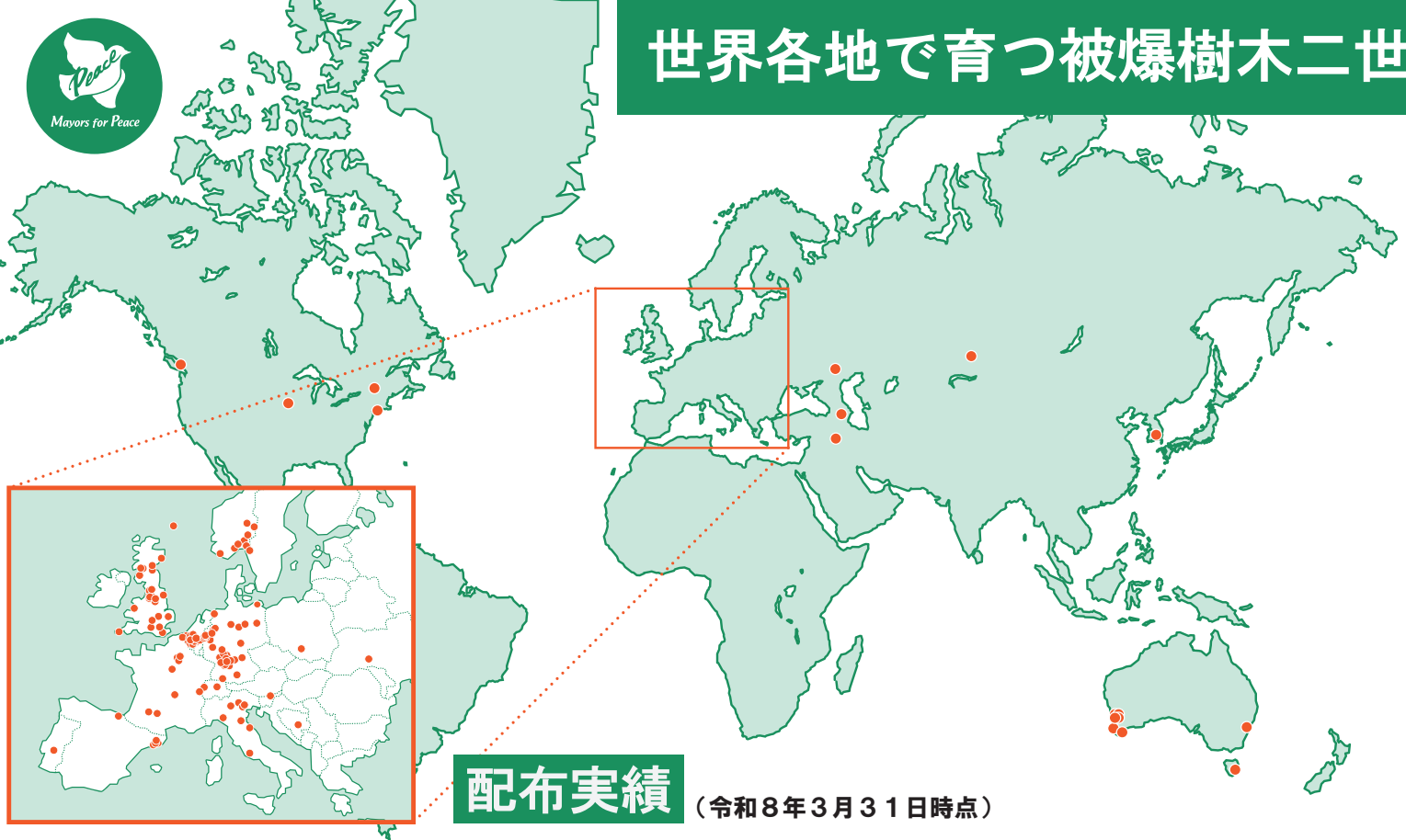


公式Facebook





世界各地で育つ被爆樹木二世



配布実績

(令和8年3月31日時点)

23か国 300自治体 4団体

専門の樹木医と相談しながら、各都市の気候に合った樹木を選び、その種や苗木を配布しています。

● 被爆樹木二世配布先

被爆樹木二世の苗木を活用した取組



英国・マンチェスター市

平和首長会議の副会長都市であるマンチェスター市では、2014年から被爆樹木を題材にした「プロジェクトG」と呼ばれる平和学習の取組が行われ、地元の学校での平和教育に大いに貢献しています。被爆樹木をテーマにした詩やアートコンテストなどを通して、子どもたちが被爆の実相を知り平和について考えるきっかけになっています。



イタリア・チェルヴィア市

被爆80周年の節目に、姉妹都市であるドイツ・アーレン市の代表団がイタリア・チェルヴィア市を訪問しました。一行は市長や地元の小学生に迎えられ、同市内の公園にあるイチヨウの木「パシフィコ」を視察しました。この木は10年前、アーレン市を通じて平和首長会議から贈られた、広島「被爆樹木二世」です。児童たちは「パシフィコ」にまつわる物語を披露するなど、代表団との交流を深めました。両市の絆から生まれたこの木は、次世代へ平和を繋ぐ象徴となっています。



(公財) 広島平和文化センター国際部平和首長会議・国際政策課

〒730-0811 広島市中区中島町1番5号

✉ mayorcon@pcf.city.hiroshima.jp

☎ 082-242-7821

公式ウェブサイト

公式X(旧Twitter)

公式Facebook

